

令和２年度第１回向日市地域公共交通会議 議事録 (令和２年７月６日書面表決)

- 議 事 (１) ぐるっとむこうバス令和２年１０月以降の運行継続について
承認２１、不承認０、棄権１
- (２) ぐるっとむこうバス停留所増設及びルート変更(案)について
承認２１、不承認０、棄権１
- (３) ぐるっとむこうバス時刻表改正(案)について
承認２１、不承認０、棄権１

表決結果 すべての議事について、承認されました。

意 見

意見 １

長年要求し続けてきたコミバス、折角走らせて頂いたのですが、乗る人が少ないことは、私たちも感じています、コミバス皆が乗れる、乗りやすいということが、一番大事なことと思います、他市でも乗りやすいバスになれば、本当に多くの方が乗っておられます。

私たちの周りのグループもコロナの前にＪＲ集合でお出かけの行事を組んでいただき出かける頃にコロナで中止このようなことがおきました向日市もますます高齢化が進みますし、高齢者が外に出られる、又外に出なければならないこともあります、その足として皆さん望んでおられます、どうか再度見直しを考えていただき誰もが乗りやすいコミバスへとよろしく願いいたします。

今私たちの上植野から東向日の市役所また本庁に行くにも、コミバスが無くなれば、高齢者の方はタクシーしかありません、本庁もそうですがコミバスが走った時タクシーで行かなくてよいと、どれだけ喜ばれたか、確かに何時も多くの方が乗っておられるわけではありませんが、やっぱり、福祉的な意味でもこのコミバス皆さんにとっても本当に大事なバス、足になっています、私たちも今後皆さんに乗っていただけるよう宣伝等もして行きたいと思います、せっかく走ったコミバス無くてはならないバスとして走らせて頂きたいと思います。

その上阪急バスの７７・７８系統もなくなり取り残された地域になりかねません、車に乗れない、自転車にもものれないそんな人にも温かい向日市であってほしい、切実に願います。

意見 2

今回の北ルートの変更は、バスが住民にとってより便利に利用できるようになるし、身近な存在と感じてもらえると思います。

これを機に、ぐるっとむこうバスが住民の足であり、市といっしょに運営していこうというムーブメントを起こすことができれば、利用者も増えていくと思いました。

意見 3

今回のコロナ禍においては、ステイホームが強調されたため交通機関は大きな打撃を受けています。

民間事業者も経営が苦しくなれば撤退も考えます。

今こそ公共交通の持つ役割をもっと広く市民に訴えていく必要があると思います。

市の広報誌で毎月コミバスの広報活動に1ページ使わせてもらうようなことも必要ではないでしょうか？

意見 4

新型コロナの影響で、外出自粛が要請され、そのため利用者が減少していますが、規制が緩和されれば必ず戻ってくるものと思われます。

更にいくつかの課題をクリアーしていけば良い結果がついてくるでしょう。

意見 5

【コミュニティバスのバス停およびダイヤの見直しについて】

いずれの案に関しても、利用者の利便性が高まる可能性が高い変更だと思います。今後も、利用者の声を反映した改善を行っていただきたいと思います。

【コミュニティバスをはじめ、公共交通の運行に関して】

コロナ禍からの経済復興にむけて、環境や社会よりも経済政策を優先させるのではなく、気候変動対策をさらにすすめ、持続可能な社会に移行していく「グリーン・リカバリー」という考え方が欠かせません。そうした中で、自家用車の利用を推進するのではなく、コミュニティバスを含む公共交通を維持することは向日市においても重要なことだと思いますが、「外出自粛」や「三密を避ける」といったことから利用者は低迷し、維持そのものが厳しい現状にあります。

おそらく、利用者が低迷するコミュニティバスに対して、税金を投与することに対して市民からかなり厳しい目が向けられることになるのではないかと思います。それに対して、向日市が目指すべき社会の中で公共交通が果たす役割をきちんと伝え、市民とともに支える必要があるという共通認識を一緒に作っていくことが大事ではないかと思います。

【 7 7 ・ 7 8 系統の路線廃止可能性について】

元々利用者が少なく、コミュニティバスとの重複路線がありますが、長岡京市とつなぐ路線であり、コミュニティバスとは違う利用者がいると思います。コミュニティバス運行によって利用者をさらに減少させることになり、路線の撤退につながってしまうのではないかと懸念しており、それが現実化することになることに、委員の一人として責任を痛感しています。

市民自身がこの路線廃止の可能性に対して、どの程度認識されているのかが重要なことかと考えています。このままでは廃止可能性が高いということが、市民にどの程度伝わっていたのか、伝わっていなかったとしたら何が足りなかったのかということをきちんと検証すべきかと思います。